



みんなのまちづくりフォーラム2023

“新たな杜の都へのチャレンジ”

みんなで仙台をアップグレードしよう

報告書

日時 / 令和5年11月12日（日）14:00～16:30

会場 / 仙台国際センター会議棟3F 白檀1

主催 / 仙台市まちづくり政策局政策企画部政策企画課

目次

1.	開催趣旨・実施概要	P1
2.	フォーラムプログラム	P2
3.	仙台市の取り組み紹介	P3
4.	ファシリテータープロフィール	P6
5.	テーマA グループワーク	P7
6.	テーマB グループワーク	P9
7.	テーマC グループワーク	P11
8.	テーマD グループワーク	P13
9.	アンケート集計	P15
10.	参加者の感想	P16

開催趣旨

本市では、「仙台市基本計画2021－2030」において、仙台の特性を最大限に生かしながら、市民の皆さまや仙台に関わる方々とともに進める8つのチャレンジプロジェクトを掲げ、“The Greenest City” SENDAIの実現に向けた様々な取り組みを進めています。

その一環として、参加者が本市の職員と一緒にまちづくりについて考える「みんなのまちづくりフォーラム2023」を開催し、21名の方にご参加いただきました。

本フォーラムは、本市基本計画の推進及び実施計画の進行管理を目的とするものであると同時に、市民協働で本市事業の磨き上げを図るものです。市の取り組みを紹介するとともに、4つの事業をテーマに、参加者、本市事業担当課、ファシリテーターの方々とグループワークを行い、各事業をより良いものとするためのアイデアや一人ひとりができることについて考えを深めました。

実施概要

■名称	『みんなのまちづくりフォーラム2023 ～新たな杜の都へのチャレンジ～』
■日程	2023年11月12日（日） 14:00 ～ 16:30
■会場	仙台国際センター会議棟 3F 白樫1（仙台市青葉区青葉山無番地）
■実施内容	①【仙台市の取り組み紹介・ファシリテーターの紹介】 仙台市基本計画の紹介動画を放映後、仙台市の取り組みやまちづくりの方向性などについて、一般社団法人ONE TOHOKU HUB代表理事／CEOの手島慧さんと、仙台市政策企画課の鹿中律良係長がクロストークで説明しました。 また、手島さんよりファシリテーターの方々をご紹介しました。 ②【グループワーク・総括】 テーマごとにグループに分かれて、ファシリテーター、市の担当職員とともにアイデアを出し合い、まちづくりに関する「自分でもできること」や「協働」について考え、内容を共有しました。 グループワーク終了後は、全体でワークの内容を共有したほか、各ファシリテーターより総括をいただきました。
■参加者数	21名
■主催	仙台市まちづくり政策局 政策企画部 政策企画課

フォーラムプログラム

時間	プログラム	登壇者／出演者
14:00	■ 仙台市の取り組み紹介 ①【基本計画動画（基本計画の内容）】 ②【基本計画動画（チャレンジプロジェクト）】	○一般社団法人ONE TOHOKU HUB 代表理事／CEO 手島 慧さん
14:15	■ 仙台市の取り組み説明 クロストークによる基本計画の説明	○一般社団法人ONE TOHOKU HUB 代表理事／CEO 手島 慧さん ○仙台市まちづくり政策局 政策企画部 政策企画課 政策企画係長 鹿中 律良
14:20	■ 事業説明 ①テーマA：「ひとのつながりを育むみどり」 ②テーマB：「混ぜればごみ、分ければ資源！」 ③テーマC：「大町・西公園エリアの魅力向上」 ④テーマD：「文化芸術が身近にあるまち」	○仙台市まちづくり政策局 政策企画部 政策企画課 政策企画係長 鹿中 律良
14:30	■ ファシリテーター紹介	○ファシリテーター／ブランドデザイナー 奥口 文結さん
		○防災士／西公園プレーパークの会 理事 佐藤 美嶺さん
		○一般社団法人ONE TOHOKU HUB 理事 伊藤 愛発さん
休 憩		
14:45	■ グループワーク ■	
	①テーマA：「ひとのつながりを育むみどり」	○ファシリテーター／ブランドデザイナー 奥口 文結さん ○建設局全国都市緑化フェア推進室・百年の杜推進課
	②テーマB：「混ぜればごみ、分ければ資源！」	○一般社団法人ONE TOHOKU HUB 代表理事／CEO 手島 慧さん ○環境局家庭ごみ減量課
	③テーマC：「大町・西公園エリアの魅力向上」	○防災士／西公園プレーパークの会 理事 佐藤 美嶺さん ○青葉区まちづくり推進課
④テーマD：「文化芸術が身近にあるまち」	○一般社団法人ONE TOHOKU HUB理事 伊藤 愛発さん ○公益財団法人仙台市民文化事業団 舞台芸術振興課 渡邊 曜平さん ○文化観光局文化振興課	
休 憩		
16:10	■ 全体共有・ファシリテーター総括	①奥口 文結さん ②手島 慧さん ③佐藤 美嶺さん ④伊藤 愛発さん
16:25	■ 閉 会	○仙台市まちづくり政策局 政策企画部 政策企画課長 佐藤 裕大

仙台市の取り組み

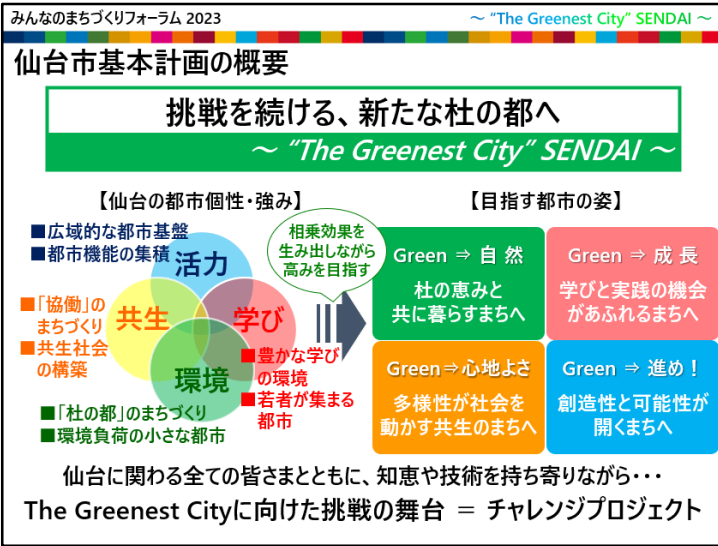
【手島】

仙台をアップグレードして、未来に引き継いでいく。そのためのアクションは、市役所だけでも、市民だけでも成し遂げることはできないと思うんです。様々な「仙台に関わる人」が、それぞれの強みや知識を持ち寄り、ともにまちづくりを進めていくことが重要になります。



【手島】

仙台というまちが今後どんな方向へと進んでいくのか、それを示しているのが「基本計画」です。仙台市で基本計画の内容を紹介する動画を2本つくっていますので、まずはそれをご覧ください。



仙台市基本計画動画

【仙台市基本計画2021-2030】
挑戦を続ける、新たな杜の都へ



■ 映像概要

仙台のまちづくりの指針として2021年度にスタートした「仙台市基本計画」について紹介。まちづくりの理念「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～"The Greenest City" SENDAI～」を実現するためには、仙台に関わるすべての方が力を合わせて、知恵や技術を持ち寄りながらチャレンジを続けることが重要であることを説明しています。

【仙台市基本計画2021-2030】
チャレンジプロジェクト・地域づくりの方向性



■ 映像概要

仙台市基本計画のうち、主に「チャレンジプロジェクト」について紹介。「チャレンジプロジェクト」とは、2021年から10年間、重点的に取り組みを進めていく挑戦の舞台のことで、8つの分野を定めています。

- ① 杜と水の都プロジェクト
- ② 防災環境都市プロジェクト
- ③ 心の伴走プロジェクト
- ④ 地域協働プロジェクト
- ⑤ 笑顔咲く子どもプロジェクト
- ⑥ ライフデザインプロジェクト
- ⑦ TOHOKU未来プロジェクト
- ⑧ 都心創生プロジェクト

仙台市の取り組み

【手島】

仙台市基本計画に書いてある内容は非常に素晴らしいと思いますし、計画としても、いろいろな分野で壮大なテーマだと思いますが、そもそもこれはどのようにして実現されていくのですか。

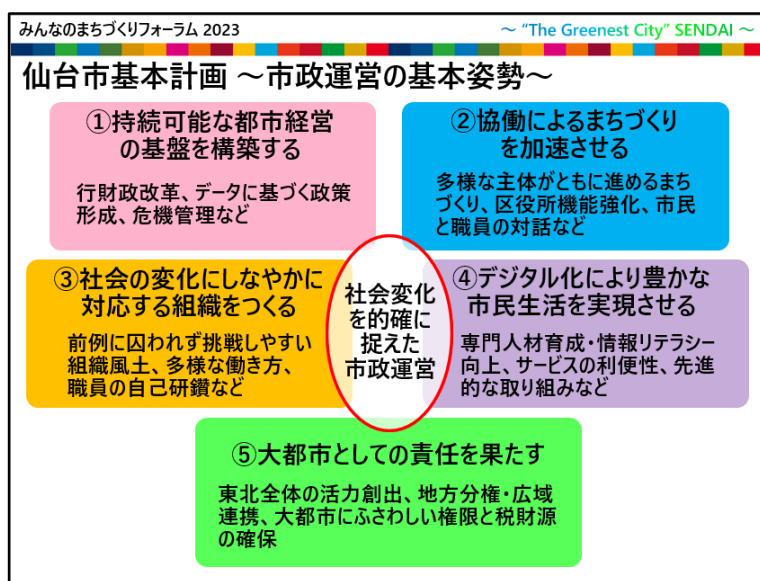
【鹿中】

実現に向けた市役所の姿勢として、図に示す5点を掲げ、「社会変化」を的確に捉えた市政運営に取り組んでいます。

そのなかでも鍵となるのが、2番の「協働によるまちづくり」です。

まちづくりや、仙台をもっと良くしようというアクションについては、市役所だけの話ではないと思っています。

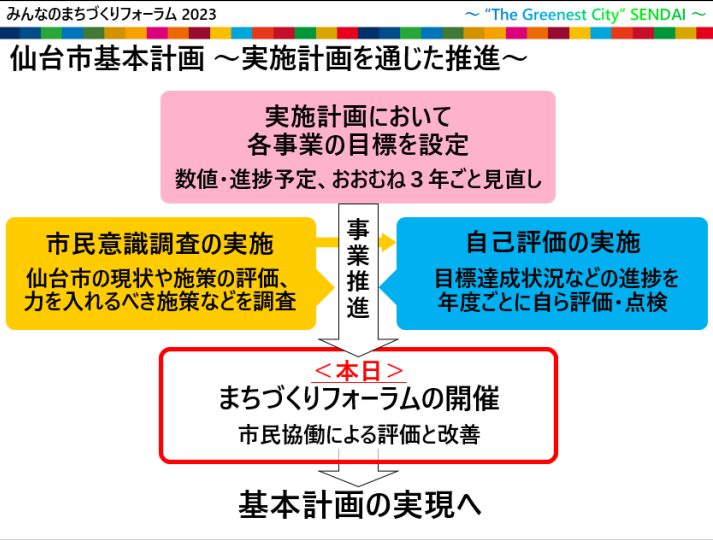
市民の皆さまに対して協働が生まれるきっかけを提供すること、そして、事業に対する関心を高めて参画いただけるように取り組んでいくこと、この2つが重要だと考えています。



仙台市の取り組み

【手島】

市民の関心を高めて、さらに市の事業への参画を進めていくところを、もう少し具体的に説明いただけますか。



【鹿中】

基本計画の実現に向けては、具体的なアクションをまとめた実施計画を作っております。

この中では、事業に数値や進捗などの目標を定めており、市民意識調査や自己評価に基づき、その達成状況を評価・点検していきます。そのうえで、各事業の改善を市民協働で行っていくこととしており、その機会が本日の「まちづくりフォーラム」になります。



テーマA ひとのつながりを育むみどり



【テーマA担当ファシリテーター】

□ファシリテーター／ブランドデザイナー
奥口 文結（おくぐち ふみゆ）さん

宮城大学事業構想学部事業計画学科卒業後、2013年に株式会社エフエム仙台に入社、ラジオパーソナリティとして番組制作に携わり、2019年にはフリーランスに。
宮城を拠点に、もの・ことのブランディングデザインを手がける「FOLK GLOCALWORKS」を主宰。

テーマB 混ぜればごみ、分ければ資源！



【テーマB担当ファシリテーター】

□一般社団法人ONE TOHOKU HUB
代表理事／CEO **手島 慧**（てしま けい）さん

震災を機に「仙台・東北をもっと面白い街にしたい」という熱い想いが芽生え、地域活性化に携わる。
2022年、「人をつなぎ、場をつくりワクワクできる仙台・東北にする」ことをミッションに掲げ、一般社団法人ONE TOHOKU HUBを設立。仙台市経営戦略会議委員、仙台市都市計画審議会市民委員を務める。

テーマC 大町・西公園エリアの魅力向上



【テーマC担当ファシリテーター】

□防災士／西公園プレーパークの会
理事 **佐藤 美嶺**（さとう みね）さん

防災士として各地で子育て世代向けの防災講座などを行いながら、仙台の都心にある自然豊かな西公園に、いつでも来れる、だれでも自由に遊べる場をつくりたいとの思いのもと、「西公園プレーパーク」を運営。
仙台市地域防災リーダー（SBL）としても活動中。

テーマD 文化芸術が身近にあるまち



【テーマD担当ファシリテーター】

□一般社団法人ONE TOHOKU HUB
理事 **伊藤 愛発**（いとう なりとき）さん

大学院修了後、仙台市内の広告会社に入社、社内で地域振興支援に関する部署を立ち上げ、官公庁や自治体の事業を推進。「複業」であるONE TOHOKU HUBでも地域プロモーションや地方創生コンサル、観光事業などに携わる。現在は青葉通駅前エリアのあり方検討協議会将来ビジョン検討事務局を務める。

テーマA 「ひとのつながりを育むみどり」 ～全国都市緑化フェア推進事業

仙台は「杜の都」として全国に知られています。これは伊達政宗公に始まる歴史の中で、たくさんの方が関わって育んできたものです。そうした中で、今年の4月から6月にかけて開催した、国内最大級の花と緑の祭典「全国都市緑化フェア」では、115万人の方にご来場いただきました。このフェアは、まさに市民の皆さまとの協働で取り組んできたもので、花壇への花植えや期間中の管理、会場案内のボランティアなど、市民の皆さまに様々な形でご参加いただきました。

フェアを通じて盛り上がった「みどりの協働の輪」を発展させるために、多くの方にみどりに興味を持っていただき、仙台のみどりの取り組みに関わってくれる方々を増やしていくには、どのようなことができるかについて話し合いました。

みんなのまちづくりフォーラム 2023 ~"The Greenest City" SENDAI~

テーマA ひとのつながりを育むみどり 全国都市緑化フェア推進事業

- みどりに包まれた都市環境は「杜の都」の歴史的財産で、仙台を特徴づける大切な個性
- その豊かなみどりを守り育てているのが **百年の杜づくり** 令和5年度市民意識調査 最上位評価!
- 仙台フェアで盛り上がった協働の輪をさらに広げていきたい!
- もっと多くの方にみどりに興味を持ってもらいたい! いいねと言ってくれる人、ともに関わってくれる人を増やしたい! そのためには???

仙台フェアの理念 「百年先の、みどり豊かな杜の都を育むために」

フェアレガシーを課題解決に生かし、新たな「百年の杜づくり」へ

必要なこと（仮説）

- ① みどりに興味を持つ 仙台のみどりの良さ、価値を知ってもらうために?
- ② 多くの人を巻き込む どうしたら新しい人に行動を起こしてもらえる?
- ③ 持続的に活動する みどりの活動を続けるためには何が必要?

これまでの取り組みで、参加者の高齢化や関心の低下など課題が顕在化...

フェアを契機にみどりの意識を向上

参加したい人 協力したい人

みんなのまちづくりフォーラム 2023 ~"The Greenest City" SENDAI~

テーマA ひとのつながりを育むみどり 全国都市緑化フェア推進事業

「全国都市緑化フェア」... 都市緑化の意識の高揚、知識の普及を図り、緑豊かな潤いのある都市づくりを目的に開催する国内最大級の花と緑の祭典

未来の杜せんたい2023 ~Feel green~

全国都市緑化仙台フェア開催 令和5年4月26日～6月18日

- ・仙台開催は34年ぶり。来場者数は目標の100万人を上回る115万人を達成。
- ・大花壇の花植えなどの市民協働プログラムや、期間中のボランティアに多くの市民が参加。
- ・来場者アンケートでは80%超が、花やみどり、自然など緑化への関心が向上したと回答。

市民協働プログラム ボランティア おもてなし運動

いただいたご意見やアイデア

1) あなたは「みどり」という言葉から、何を思い浮かべますか？

○リラックス、癒し、季節ごとに感じられる匂い、公園、遊歩道、木陰、生き物

2) 仙台のまちで過ごしていて、「みどり」を感じるのはどんな時・所ですか？

○キンモクセイの匂いを感じる一番町四丁目界隈の街路樹。定禅寺通、西公園界隈、七北田公園

○車を走らせると段々とみどりが増えていくグラデーションが良い

○平日の昼間に有給をとって散歩しているとき。通勤中のふとした時にみどりを感じる

3) 仙台のまちで過ごしていて、もっと「みどり」があったら良いなと感じるのはどんな時・所ですか？

○山形に通学して感じるのが、例えば公園はあるけど、子どもが遊べる公園にみどりが少ない印象

○仙台駅前のペDESTリアンデッキ、運動施設周辺

4) 「みどり」に関するものやことを、普段の生活に取り入れたり、体験したりすることはありますか？

○普段の生活の中で花を買って飾っている。家庭菜園や花壇づくりをしている

○みどりを感じられる場所はあるため、みどりと触れ合いを提供できる機会を増やすことが必要

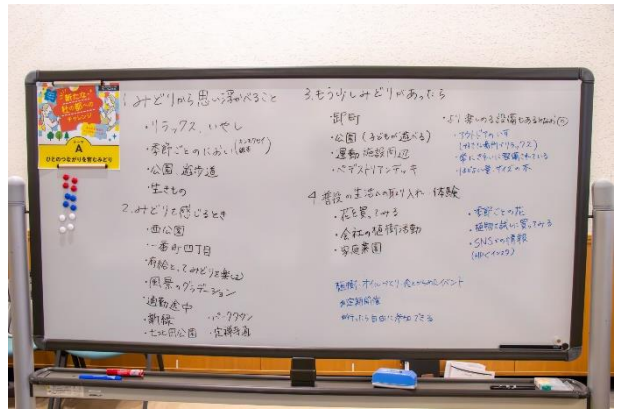
いただいたご意見やアイデア

5) 普段の生活でみどりをもっと意識するにはどうすればいいか？

- 植物を買って世話をしてみるなど普段の行動を少し変えてみる。散歩をしてみる
- 情報発信が、市のホームページではなく、Instagramなど勝手に目に入ってくるものだと良い

6) どういう公園ならみどりを感じられるか、どういう施設があると楽しい雰囲気があるか。

- 気軽に行ってリラックスできる公園。キャンプ用のいすを貸し出してみどりを感じられるところで使えると良い
- みどりの多いところが綺麗に整備されていれば、性別・年齢問わず行きやすくなるのではないかと
- バーベキューなどのアウトドアの機会を定期的に設けることで、人の輪が広がるのではないかと



ファシリテーターから

参加していただいた方の出身や職業が異なっていたことで、それぞれの視点で等身大のお声が聴けたのが良かったです。また、欠席が複数名いらしたことで、仙台市の方にもディスカッションに参加していただき、行政と一般の方が境なく話すことができる貴重な機会になったと思います。

今回のテーマ「ひとのつながりを育む」について、「公園でバーベキューなどのアウトドアの機会を定期的に設けることによって、人の輪が広がっていくのではないかと」など様々なアイデアが出ました。まずは、気軽に自然の中で誰かと交流できる機会を作り、少しずつ内容のバリエーションや頻度を増やせると、仙台のみどりをより活用していけると感じました。



担当課職員から

一口に「みどり」といっても、公園や街路樹、また街中から山間部に至るまで、場所や種類、それぞれの「みどり」への思いも多様な中、普段の暮らしの中で「みどり」を感じるのはどのような場面か、仙台にどのような「みどり」があったら良いかなどの意見を交わしました。

話の中で、通勤や通学、散歩中など、日常のふとした時に「みどり」を感じる方が多いことがわかりました。こうした「みどり」をより生活の中に取り入れていくために、「みどり」を舞台にどのようなことを企画すると良いのか、若い方への情報発信のあり方も含めて貴重な意見をいただきました。このアイデアを参考に、市民の皆さまと百年の杜づくりを進めてまいります。

テーマB 「混ぜればごみ、分ければ資源！」～ごみ減量・リサイクル推進事業～

仙台市では、ごみに「燃える」と「燃えない」という区別がありません。資源物を取り出して、残ったものが家庭ごみとなります。令和4年度に家庭ごみの組成調査を実施して、リサイクルできる資源物が4割以上も含まれていることがわかりました。

家庭から出るごみの量を減らすために、これまで仙台市ではキャンペーンキャラクターのワケルくんなどを活用した啓発に取り組んでいます。「ワケルくん」というキャラクターは多くの皆さまに知ってもらえるようになった一方で、家庭ごみに混入する資源物の割合はまだまだ高いままです。一人ひとりのリサイクル行動につなげる効果的な啓発などについて話し合いました。

みんなのまちづくりフォーラム 2023 ~ "The Greenest City" SENDAI ~

テーマB 混ぜればごみ、分ければ資源！ ごみ減量・リサイクル推進事業

キャンペーンキャラクター「ワケルくん」ファミリーを活用したごみ減量・リサイクル啓発の取り組みの例

令和4年5月～プラスチックは必要な分だけキャンペーン

令和5年4月～製品プラスチック一括回収

令和5年10月～雑誌み回収キャンペーン

みんなのまちづくりフォーラム 2023 ~ "The Greenest City" SENDAI ~

テーマB 混ぜればごみ、分ければ資源！ ごみ減量・リサイクル推進事業

仙台市における家庭ごみの現状と課題

家庭ごみの組成 (令和4年度)

家庭ごみには「プラスチック製容器包装」や「紙類」などの資源物がまだまだ多く混入している

- 一層のごみ減量・リサイクルに向けては、市民にとって分かりやすい啓発が必要
- 廃棄物の焼却処理での温室効果ガス排出量の約8割を占める、プラスチックごみの焼却を削減することは、「脱炭素都市づくり」にも貢献

一人ひとりの分別・リサイクル意識を高め、行動につなげるためには？

約4割が、リサイクル可能な資源物

ワケルくん

いただいたご意見やアイデア

1) ごみを減らしていくには？

- 計画的にスーパーで買い物をして、余計なものを買わないようにする
- 生ごみの水切りをする。食材は使い切って、食べ尽す
- マイバックやマイストローなどを持つことで、使い捨てのものをお店で受け取らないようにする
- ごみ回収エリア、町内会でのごみの減量や分別のコンクールを実施する
- 大学別のごみ減量競争などチーム対抗戦を実施する
- まだ使えるようなものは廃棄せず、フリーマーケットなどで売るようにする
- 野菜くずを生ごみに捨てずに煮詰めることでおいしい野菜出汁ができ、野菜くずも少なくなるためごみの減量にもつながって一石二鳥
- ごみ袋の値段を高くすると、ごみを減らす意識が高まるのではないか
- ごみを減らしたという達成感を見える化すると良い。ポイントなど何かが貯まっていく仕組みがあるとポジティブに行動を起こしやすい
- 「なぜごみの分別が必要なのか、ごみを減らさなくてはならないのか」を意識づけさせることがとても重要

いただいたご意見やアイデア

2) ごみの分別をするにはどうしていくべき？

- 雑紙がどこまでリサイクルできるかわかりづらいことが紙ごみの分別が進まない原因ではないか
- 家庭内に分別区分ごとのごみ箱を置いて、最初に分別して捨てる習慣をつけていく
- 回収された資源物が実際にどのようなものにリサイクルされるかを見せていくことが大切
- ごみ袋を透明にして家庭ごみに資源物が含まれているかを見えるようにすれば良いのではないか
- スマホをごみにかざすと分別方法が分かるアプリを企業と開発する。そのアプリに広告を掲載したり、ポイントが貯まると良い



ファシリテーターから

まちづくりイベントに初めて参加した方もいらっしゃいましたが、「どのくらいごみを減らせたか、各大学対抗で競争方式を取り入れたら面白いのでは?」、「認知度が低いワケルくんファミリーの着ぐるみをごみ集積所に派遣し、啓発を行う」など数多くのアイデアが出てきました。

改めて、まずは仙台のまちづくりの各テーマに対して、「自分ごととしてどのように関わることができるのか?」を色々なバックボーンを持つ人たち同士で、話し合う場が非常に重要であると感じました。

こういった光景が日常的に仙台のいたるところで行われることで、市民にとって暮らしやすい仙台のまちにアップデートされていくのではないかと思います。



担当課職員から

仙台市の家庭ごみの現状と課題、これまでのごみ減量・リサイクル啓発の取り組みをご紹介します。一人ひとりの分別意識を高める効果的な啓発について意見を交わしました。

「レシートは紙類ではないのか」等、ごみの出し方についての質問も数多く寄せられ、細かい分別ルールはまだ知られていない部分が多いと感じました。

参加者の一人からいただいた「そもそもなぜごみを分別しなければならないのかをもっと発信した方が良い」とのお話がとても印象的でした。いただいたご意見を参考に、市民の皆さまにとってわかりやすいごみ減量・リサイクル啓発に取り組んでまいります。

テーマC 「大町・西公園エリアの魅力向上」 ～「Fun,Fan,Find青葉」事業～

大町・西公園エリアは、青葉山エリアと都心をつなぐ場所にあり、市が目指す「巡り歩きたくなるまち」を実現するうえでとても重要な場所ですが、最近マンション開発が相次ぎ、地域住民の交流のかたちが変わるなどの課題も顕在化しつつあります。そこで青葉区では、「Fun,Fan,Find青葉」事業を開始しました。ガーデニングセミナー、まち歩きイベントなどを通じた交流の場づくりや、エリアを好きになってもらうための企画を実施しています。

エリアの中でもポイントになるのが西公園です。西公園は桜の名所であるほか、蒸気機関車など多くの魅力があります。より多くの方に魅力を知ってもらい、地域の方や来訪者、そして子どもの笑顔が溢れる西公園にしていきたいためにできることについて話し合いました。

みんなのまちづくりフォーラム 2023 ～「The Greenest City」 SENDAI ～

テーマC 大町・西公園エリアの魅力向上 「Fun,Fan,Find青葉」事業

事業概要

▶ 大町・西公園エリアなどで、人々が憩い、楽しめる環境づくりを進め、愛着を育むとともに、青葉山エリアや中心部商店街など周辺との回遊性を高め、新たな魅力の発見を促す「令和の登城路」づくり

住民が主役となって楽しみFun 愛着を持ちFan 新たな魅力を発見するFind

令和5年度の主な取り組み

AOBADORI de NAMISURU?
沿道を活用したイベント
主催：青葉通まちづくり協議会

伊達武将隊との「登城路ツアー」

区HPでの情報発信

みんなのまちづくりフォーラム 2023 ～「The Greenest City」 SENDAI ～

テーマC 大町・西公園エリアの魅力向上 「Fun,Fan,Find青葉」事業

西公園の魅力

蒸気機関車

こけし塔

お花見広場

西公園プレーパーク

いただいたご意見やアイデア

1) 日常的に親子で遊びに行きたいのはどんな公園？

- ボールを自由に使える公園。ボールやラケットなどを貸してもらえる
- 自動車の往来を気にしなくていい。治安が良くて安全・安心な公園
- 子どもが遊んでいる時に、親同士が子育てなどの情報共有や交流ができる
- 毎日遊べるアクティビティが豊富にある。飽きのこない、時間を忘れて過ごせる公園
- 虫や魚を捕まえるなど自然を感じられる・触れ合える公園
- 年齢関係なく交流ができる。子ども同士も、今まで遊んでいなかった年代の子どもとも遊べて、刺激が得られる環境
- トイレがきれいなこと、ごみ箱が整理されていること
- 遊びが制限されない環境。遊具が危険で撤去されるケースがある
- 公園内に何があるのか、わかりやすい施設の案内板やサインがあると良い
- 雨が降っていても遊べること、季節を問わず遊べる空間があること

いただいたご意見やアイデア

2) より多くの子どもたち・親子に、西公園を楽しんでもらうためには？

- 今の子どもは自然との遊び方がわからないので、教えてくれる機会があると良い
- 遊び道具を貸し出すだけでなく、使い方を教えてくれるサポーターもいると良い
- 歩道橋でしか渡れない交差点があるので、横断歩道があると行きやすい。ベビーカーだと不便
- 公園内にカフェを設置して気軽に休める環境を整える
- 公共交通機関で来た際にベビーカーの貸し出しがあると便利。ずっと抱っこ紐だと大変
- 子どもが遊んでいる時、見守りしてくれる人がいると親も安心、リラックスできる



ファシリテーターから

今回のグループワークを通して、私も様々な視点から西公園を考えることができました。「西公園における親子連れや子どもの遊び環境の充実」について皆さまから意見を出していただきましたが、乳幼児、小学生、中学生、親世代、それぞれの視点からの意見が出たことに驚きました。

皆さまの意見を聞いて、西公園には、子どもの成長に合わせた切れ目ない様々な活用の可能性があることを再認識しました。今後さらに、異年齢の子どもたちが一緒に楽しめて、子育て世代にとっての交流の場になるなど、日常的に足を運びたい公園になってほしいと思いました。



担当課職員から

「より多くの子どもたち・親子に西公園を楽しんでもらうためには？」をメインテーマに話し合いました。

育児中のお母さんや大学生等 8 名に参加いただき、日ごろ西公園を利用している視点での課題（アクセス、飲食・休憩スポット不足等）のほか、来園のきっかけとなるイベント、遊びや安全面の見守り、地域・学校との連携等、利用を増やすための様々なアイデアをいただきました。大学生の方からいただいた「サークルがイベントの担い手になれるかも」という意見が印象的でした。地域の方々や関係部署と協力しながら、いただいたアイデアを活かして取り組みを進めていきたいと思っています。

テーマD 「文化芸術が身近にあるまち」～文化芸術によるまちの魅力づくり事業～

仙台市では、伝統芸能の継承、音楽・演劇の振興、七夕まつりなどの振興、漫画やアニメといったコンテンツの打ち出しなど、様々な取り組みを進めています。

文化芸術を身近に親しむ例として、「仙台クラシックフェスティバル」があります。この企画はプログラムや公演時間を工夫して、誰もが気軽に名曲を楽しめるイベントとして開催しています。また、この関連イベントとして、地下鉄駅で演奏したい方を公募して行う「地下鉄駅コンサート」も実施しています。

文化芸術への主な関わり方は、鑑賞、企画やボランティア、演者の大きく3つに分けられます。仙台市市民文化事業団の職員のレクチャーも踏まえて、文化芸術をもっと身近に感じてもらうためにできることについて話し合いました。

みんなのまちづくりフォーラム 2023 ~ "The Greenest City" SENDAI ~

テーマD 文化芸術が身近にあるまち 文化芸術によるまちの魅力づくり事業

仙台市の文化芸術振興事業 (一部)

仙台クラシックフェスティバル (愛称: せんくら) 毎年9月下旬～10月上旬の3日間開催

関連イベント: 地下鉄駅コンサート
入場無料/仙台駅 & 旭ヶ丘駅構内にて開催 (計30ステージ)

文化芸術への参加の3形態 (一般市民としての関わり方)

- ① 鑑賞する (鑑賞も参加の一形態)
- ② 実演・展示に関わる (運営ボランティア、企画など)
- ③ 自分が実演・展示する

「文化芸術が身近なまち」とは?

- A 多様な文化芸術に触れる機会が多い
…コンサートや展覧会が数多く開かれている、まちのオープンスペースなどで実演や展示に触れる機会がある、など
- B 運営ボランティアが募集されている
- C 文化芸術イベントを実施するためのサポート体制がある
…誰もが使用可能な施設がある、イベント助成金がある、など
- D 実演や展示を行う機会が多くの人に開かれている
…公募がある、登録制度がある、など

文化芸術をもっと身近に感じてもらうためにできること

いただいたご意見やアイデア

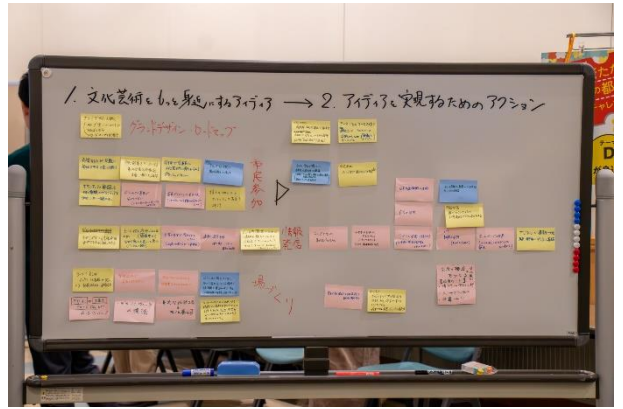
1) 文化芸術をもっと身近にするアイデア

- 市民の発想がベースとなって文化芸術が育っている (定禅寺ストリートジャズフェスティバルなど)。市民だけではお金や場所が確保できないため、市や企業が支援する仕組みがあると市民が発案しやすい
- 仙台出身の有名な漫画家、仙台・宮城を舞台にしたアニメがたくさんある。市でもっと戦略的に活用すると仙台をもっとPRできるのでは
- デザイン産業の活性化のために、2004～2014年までデザインウィークせんだいを実施していた。デザインウィークの復活。ゆくゆくは仙台にデザインミュージアムが造れたら良い
- 子どもや学生が文化芸術に関われる機会がもっと増えると良い。また仙台市中心街ではなく、公園や空いている空間で文化芸術を楽しめると良い
- 市内の空き店舗を展示や演奏スペースとして活用できると、気軽に参加しやすい
- どこでどのような文化芸術イベントを開催するかわかりやすい情報発信ができる仕組みがあると良い

いただいたご意見やアイデア

2) アイデアを実現するためのアクション

- 行政だと同じスペースで実施する催事でも、担当部署が異なるため、情報掲載・発信が別々になってしまう。仙台市、宮城県の文化芸術情報を併せて発信するような仕組みがあると良い
- 歴史、アニメ、芸術などテーマごとに仙台市内を巡るモデルコースを作る
- 学校が企画する鑑賞会など、学生が自ら選択して文化芸術に触れる機会を作っていくことが大切
- 市民交流の機会づくり、参加ができる企画展、ワークショップを実施する
- 興味がある人に直接働きかけることができるようなプッシュ型通知の仕組みがあると良い



ファシリテーターから

文化芸術という幅広いテーマでしたが、参加者一人ひとりの好きなジャンルを起点に考えていただいたことで文化芸術一般の話ではなく、より個別具体的なレベルでの意見を引き出すことができましたと思います。

「文化芸術をもっと身近にするアイデア」としていただいた意見は「ランドデザイン」「市民参加」「情報発信」「場づくり」の4カテゴリに分けられ、そこから「アイデアを実現するためのアクション」について意見出しを行ったことで、円滑にワークを進めることができましたかなという印象です。グループ内の参加者構成が、年齢・性別ともにバランスが良く、全員から様々な意見を聴きとることができました。



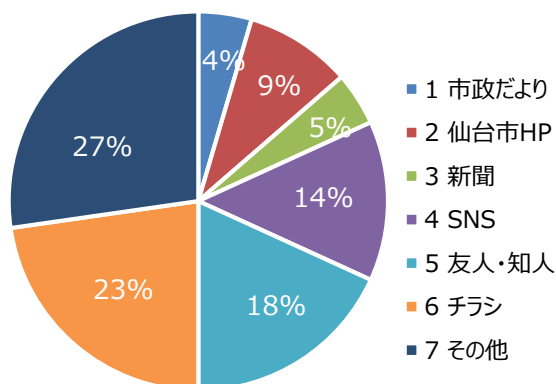
担当課職員から

大学生から年配の方まで様々な方にご参加いただき、意見を交わしました。文化芸術の幅は広く、参加者の皆さまそれぞれ関心のある分野も異なる中で、特に、文化芸術に関するイベント等への情報発信について、共通して多くのご意見をいただきました。

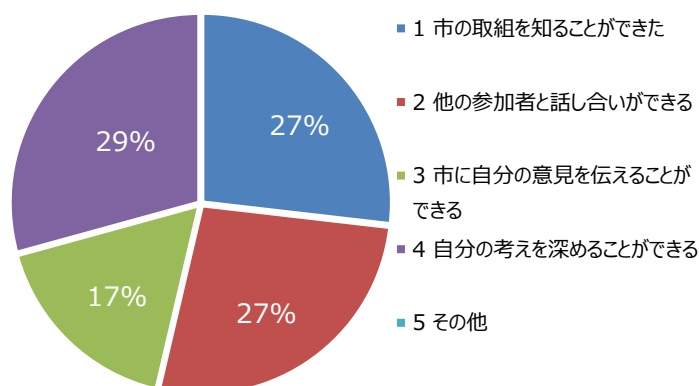
情報をよりわかりやすく、簡単に得られることが、興味関心から文化芸術活動への参加につながるということを改めて実感する機会となりました。「文化芸術が身近にあるまち」を目指し、その一歩目となる情報発信のあり方をはじめ、いただいた貴重なご意見をもとに、今後の取り組みを進めてまいります。

アンケート集計

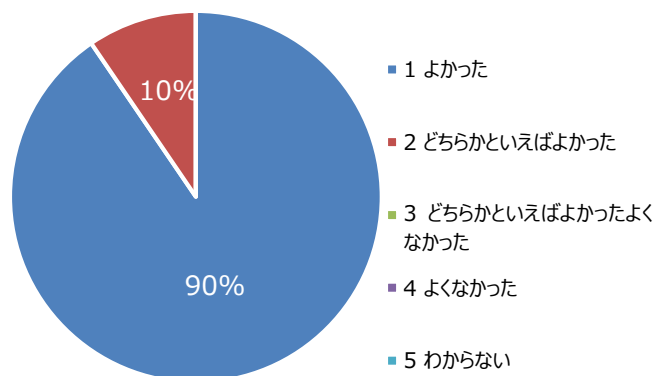
Q1) このイベントをどこでお知りになりましたか（複数回答可）



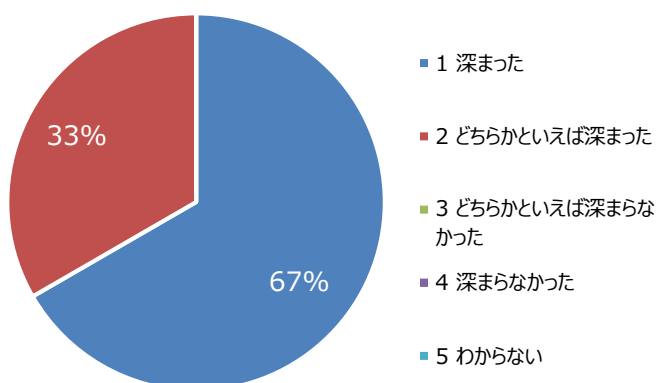
Q2) このイベントのどこに興味があり参加されましたか（複数回答可）



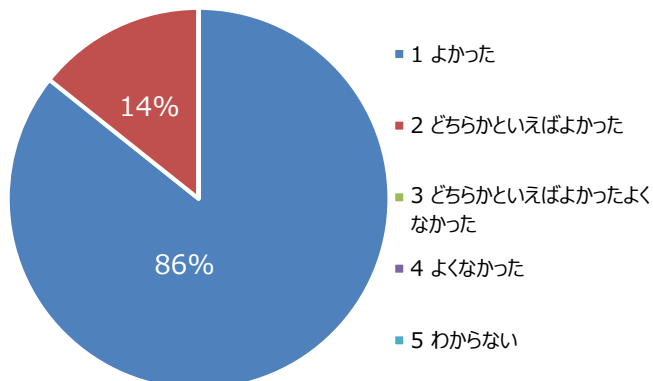
Q3-1) このイベントに参加した感想はいかがですか



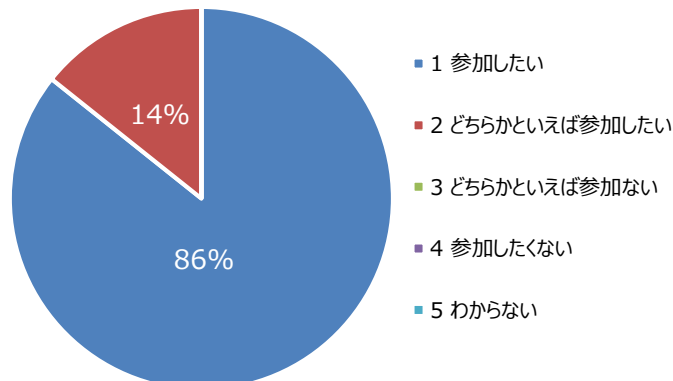
Q3-2) 仙台市の取り組みへの理解は深まりましたか



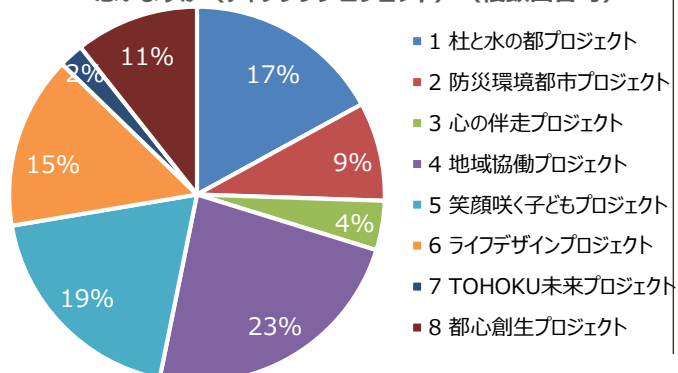
Q3-3) グループワークの議論はいかがでしたか



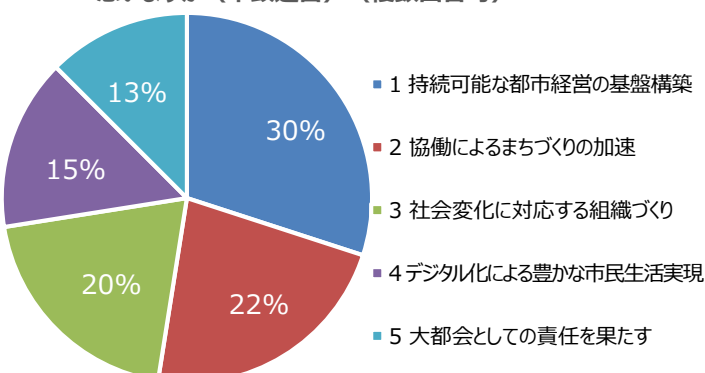
Q3-4) 今後同じようなイベントがあったら参加してみたいですか



Q4-1) 仙台市は今後どのような分野に力を入れるべきだと思いますか（チャレンジプロジェクト）（複数回答可）



Q4-2) 仙台市は今後どのような分野に力を入れるべきだと思いますか（市政運営）（複数回答可）



参加者の感想

初めてこのような機会に参加しました。色々なバックグラウンドの中で様々な視点で物事を見ることができ、以前よりも市政ということに興味を持ってました。

また、一市民としてまちづくりに参加できるということを知りきっかけとなり、ありがたかったです。

普段大学にいて学生との関わりが多いので、今回子育てされている方であったり、実際にまちで活動している方であったり、実に様々な世代の方の意見やアイデアを聞くことができ、とても刺激になった。

このようなイベントの開催頻度を増やしたり、もっとオープンに屋外で実施（会場設備等の都合で難しい所もあると思いますが…）するなど、住民が自分ごととしてまちづくりに参画できる工夫があれば良いなと思った。

自分の将来やりたいことが少しわかった気がします。

このように立場が違う人が多く集まってそれぞれの考え方に触れられる機会というのは少ないので、貴重な体験になりました。

このような機会が増え、仙台がさらに魅力あふれる、市民に愛されるまちになれば良いなと思います。

実際に子育てしている立場の方など、幅広い人の意見を聞くことができ、時間が足りないくらいに意見を深めることもできて、とても良い体験ができた。

「文化芸術」についてはあまり詳しくないのですが、幅広い選択肢があって、とても面白かったです。たくさんの方と意見を交換することができ、自分にはないような考えが色々あったので、すごく勉強になりました。今回の様々な意見が今後の事業にどのように関わっていくのか楽しみです。

様々な立場の人が集まり、1つのことについて考える機会が普段ないので、とても貴重でした。学生同士で話し合っても、理想を語る（語弊があるかもしれませんが）ようになってしまいがちですが、実際に事業をされている方と話し合うことができて良かったです。

仙台市基本計画について詳しく知ることができました。グループワークでは、なかなか意見を出せませんでしたが、他の人の考えを聞き、たくさん学ぶことができました。楽しかったです。

私はこのイベントに学校の授業がきっかけで参加したのですが、自分の意見を深めるだけでなく、仙台市の取り組みについて、たくさんの情報を得ることができました。

私は自分から何かを発信することが苦手なのですが、苦手であっても参加することによって他の方の意見を聞くことができ、とても楽しいワークショップとなりました。

他年代、他業種の方と仕事とは異なる内容について、ざっくばらんに意見交換できて楽しかった。市の業務を実際に担当されている方の視点での意見やアイデアが参考になった。

違う世代等の方と話す機会が普段中々ないので貴重な時間となりました。全体的に学生の方が多いような印象があったので、もっと幅広い年代の方が参加して下さったら良いなと思います。

仙台市には、さらに発展していくための要素がとても多いと感じました。私自身も市の発展のために行動を起こしていこうと思いました。